

学校法人鴨江寺学園

令和4年度鴨江幼稚園事業報告書

1 法人の概要

○ 建学の精神

本園は、釈尊の説かれた「法を灯明とし、自らを灯火とせよ」の、幡を掲げています。

本園は、先哲の流れを現代に生かし、体は野性的に！ 心豊かに！ 知能は文化人に！と、3拍子揃った教育を基本としています。

宇宙的広がりの中で、子どもたちが自己実現できる人間に成長し、感謝と努力を胸に、世界で創造・調和・貢献できる人間となるための土台作り励んでいます。

我々は、より良い未来を創るために、PTAの三者が共に喜びあえる集団であることを念じています。

○ 設立の経過

昭和25年3月14日 宗教法人鴨江寺 鴨江幼稚園設置認可
昭和58年6月30日 学校法人化への設置者変更申請
昭和58年7月28日 学校法人鴨江寺学園認可
平成29年3月31日 きなりこどもえん設置認可
現在に至る

○ 設置する学校

鴨江幼稚園

○ 園則定員

3才児	140人	5クラス
4才児	140人	4クラス
5才児	140人	4クラス
		<hr/>
		420人

○ 園児数の状況 (R4.5.1 現在)

3才児	98人	5クラス
4才児	94人	4クラス
5才児	101人	4クラス
		<hr/>
		288人

○ 役員・教職員の概要

理事	6人
評議員	13人
監事	2人
教職員	37人

2 事業の概要 (鴨江幼稚園)

○ 当該年度の事業の概要

別紙 年間予定表

○ 当該年度の主な事業の目的・計画

<自主> 自分の力で考える。	<自律> 自分自身を律し、感じる。	<共生> 他と共に生き生きと活動できる。
-------------------	----------------------	-------------------------

人間の土台を育む年間カリキュラムを実践する。

<教育要領実施項目>

I 健康

1. 行動と充実感

・体育ローテーション・オブネット英語

2. 運動

・体育ローテーション・マラソン・ヤマスポーツ・運動会

3. 健康・安全

・薄着・裸足の励行・防災避難訓練 (保健安全計画別途記)・交通安全教室

・コロナ対策

- II 人間関係
1. 自分の力で行動する充実感
 - ・ S I あそび・制作活動・園外保育・ゲーム遊び
 2. 人とのかかわり
 - ・ お店屋さんごっこ・遠足・盆踊り・誕生会・ヒッポ
 3. 社会性
 - ・ 朝礼・基礎活動・給食当番・一泊保育

- III 環境
1. 自然とのふれあい
 - ・ 園外保育・遠足・芋の栽培、収穫・花壇・朝顔
 2. 身近な環境に自分からかかわる
 - ・ 園内遊び・花まつり・青葉祭・七夕・クリスマス・節分・涅槃会
 - ・ ジャが芋蒸し・餅つき
 3. 身近な事象の中で数、文字の感覚を豊かにする
 - ・ タイルあそび・モンテ・絵日記・かるた

- IV 言葉
1. 自分の気持ちを言葉で表現する
 - ・ 当番活動・生活発表会・劇遊び
 2. 言葉で伝え合う喜びを味わう
 - ・ 言語発表の時間・ごっこあそび・ヒッポ
 3. 日常会話を習得し、まわりの人と心を通わせる
 - ・ 絵本、紙芝居の読み聞かせ・ごっこ遊び

- V 表現
1. 美しさに対する豊かな感性
 - ・ 絵画・BGM・MS・詠詩
 2. 自分なりに表現する
 - ・ 劇遊び・リトミック・絵画制作・MS・発表会
 3. イメージを豊かにし表現を楽しむ
 - ・ ライゲン・エポック・リトミック・作文・発表会

○ 令和3年度は、次の点の育成に重点をおいて事業に取り組んだ。

1. 園児
 - ・ 児に知識を与える。――→ 考える子どもに育てる。
 - ・ 園と園児と家庭で共通の、園児の個人目標をたて、達成するために家庭と園が連絡を密にする。
 - ・ 全園児の年間第1目標達成率は99%であった。

2. 職員
- ・自ら考えて行動する教師になる。
 - ・自分自身に誇りを持つ。
 - ・語彙を増やす。
 - ・学年主任、学年会を中心とする。

○ 事業実施の概要は以下の通りである。

実施月	事業内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園式 8日 (午前10時・2階ホール) ・始業式 11日 ・ 心電図検査 21日(年中児) 内科検診 4/25
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康診断 (16日内科) ・ 身体発育測定(隔月実施)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 父親参観会 4・18日 ・ 歯科検診 16日 ・青葉祭 15日
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 七夕会 7日 ・ 年長観音山 19日 ・父親参観会 7/2 ・ 終業式 22日
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地藏盆踊り 23日 (午後5:30~鴨江寺・園児) ・ 始業式 25日
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災訓練 1日 (園内・園児)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会 8日 (午前9:00~・西小学校・) ・ 参観会年長 24・25日・芋ほり 10/31
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参観会年中 7・8日 ・参観会年少・光 14・15 ・ 芋ほり 1日
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児生活発表会 9日 ・ もちつき 7日 (園内・園児)・個人面談 12-16日 ・ クリスマス会 21日 ・ 終業式 21日
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通教室年長 12日 ・ 鴨江っ子まつり 26日
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 節分 3日 ・ 涅槃会 15日 ・ 参観会 6,7・13,14・21,22日 ・卒園遠足 2/10
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひなまつり 3日 ・ 卒園式 15日 (2階ホール) ・ 修了式 16日 (2階ホール)

年間目標		ね ら い	
		反	省
指導内容の視点	健康	<ul style="list-style-type: none"> ○生活に必要な身の回りのことが自らできるように、基本的な生活習慣を身につける。 ○共感や共有する体験を通し、友だちとの関わり方を知っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月齢が小さく、甘えたい時期でもあるが、自分の事が自分で出来るようになるにつれ、自信を持って園生活を送れるようになった。 ・一年を通して体力もつき、行動範囲が広がったと感じる。 ・友だちと関わりを持てるようになり、園生活を楽しめるようになった。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ○出来る範囲内の身の回りの始末などを行いながら生活する上で必要な習慣を身に付ける。 ○ホールや園庭で体を動かす事を楽しむ。 ○手洗い・うがいが身につくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣は丁寧に関わる事で徐々に身につけていき、着替えや排泄を自分で行えるようになった。 ・走ることを意識的に取り入れた。転ぶ子が多いと感じる。 ・手洗い・うがいは習慣になったが、丁寧に行う事が出来なかったように思う。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ○気の合った友だちでき、友だちと過ごす楽しさや仲間と一緒にいる喜びを味わう。 ○集団遊びの中で簡単なルールを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの遊びを楽しめる子も増えたが、大人と遊んだり一人で遊ぶ事を好む子もいる。無理強いせず、安心できる環境づくりを心掛けた。 ・集団遊びを繰り返し行う事で、その楽しさに気づく事ができた。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ○外気や草花に触れることにより、自然を感じ取る。 ○保育者と絵本を読んだり、自分で好きな絵本を選んで見ていく中で、文字に興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育や散歩に出掛ける中で季節の変化に気づく事が出来た。また、季節にあった絵本を用意する事で、身近な生物に興味を持つ事が出来た。 ・絵本の読み聞かせは毎日欠かさず行った。集中して聞く事が出来る。 ・文字への興味より数字への興味の方が強かった。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ○日常の挨拶への、親しみをもつ。 ○言葉でのやりとりを楽しみ、会話の中でいろいろな言葉を使おうとする。 ○保育者と絵本を読んだり、自分で好きな絵本を選んで見ていく中で、文字に興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な挨拶は保育者が明るくするよう心掛け、手本を見せていった。こちらから挨拶をする事で子ども達からも挨拶の声が聞こえるようになった。 ・言葉で自分の気持ちを伝える事はまだ難しい年齢。月齢によっても差がある。言葉で上手く伝わらず、手が出てしまう事もあった。一人ひとりに寄り添い、言葉で伝える事の大切さを子ども達に伝え続けた。進級後も引き続き指導が必要と思われる。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽に親しみ、聞いたり、歌ったり、体を動かしたり、リズムに合わせて楽器で遊ぶ。 ○異年齢児との関わりの中で、様々な表現の仕方を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて踊ったり楽器を鳴らしたりする事を楽しむ事が出来た。 ・運動会や発表会の踊りも意欲的に参加する姿があった。 ・異年齢児との交流が少なかったと感じる。少ない中でも年上の子が優しく接してくれ、憧れを抱く様子が見られた。
保護者支援		<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣については、子どもが出来ることや自らやろうとしている意欲を共有し、喜び合うとともに、家庭でも根気強く自立に向けて協力してもらおう。 ○子ども一人一人の発達課題も共有し、育ちの見通しが立つようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が協力的で、子どもの成長を同じ方向を見据えながら見守り、援助してくれた。そのおかげで子ども達が安心して園生活を送る事が出来た。 ・園の様子についてはおたよりカードやクラス通信でこまめに伝えるようにした。 ・子どものプラス面については沢山伝える事が出来た。しかし、マイナス面については上手く伝える事が難しかった。色々な特性を持つ子が増える中、一人ひとりの姿を丁寧に見つめていく必要がある。保護者との信頼関係を築く事で連携を取りやすくなると思うので、保護者との関係づくりを大切にしていく。

		ね ら い	反 省
年間目標		<ul style="list-style-type: none"> ○喜んで登園し、友だちや保育者に親しみを持つ。 ○園生活の流れを知り、園の生活リズムに慣れる。 ○遊具や玩具に興味を持ち、好きな遊びを十分に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初は新しい環境に泣けてしまう子もいたが、園生活に慣れると登園を楽しみにし、好きな遊びを見つけられるようになった。 ・友だちの名前を覚えると、友だちに声をかけ「一緒に遊ぼう」と、声をかける姿が見られた。最初は平行遊びであったが、徐々に関わり合うことを楽しめるようになった。
指導内容の視点	健康	<ul style="list-style-type: none"> ○自分でできる事は自分で行い、自信を持って過ごす。 ○全身を使って自然や様々なものと関わったり、友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の協力もあり、衣服の着脱や排泄は自分で行うことができた。しかし、支度の手順が覚えられない子がいた。絵カードなどで視覚的に伝える事で手順を覚え、一人で支度が出来るようになった事が自信となった。 ・冬の寒さの中でも、体育で行った鬼ごっこなどの集団遊びを楽しむ事ができた。また、年上の子ども達に混ざって遊びを教えてもらう姿もあった。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちとの遊びの中で、園生活のルールを身につける。 ○友だちや保育者など、身近な人への関心を深め共に過ごす楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活が初めてでルールが分からない子には、保育者が一緒に関わり物の貸し借りや順番に並ぶ事を伝えた。3学期には子ども同士で困った事を解決しようとする姿が見られた。 ・異年齢児との関わりがコロナ禍により減ってしまった事が残念だった。 ・友だちへの興味が深まり、一緒に遊ぶ中で言葉でのやり取りが出来るようになった。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ○裸足で戸外に出て、自然に触れたり、十分に体を動かして遊びを楽しむ。 ○身近にあるものに興味を示し、遊びに取り入れようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭の状態が悪くなり、年度の途中で裸足保育が出来なくなってしまった。 ・戸外での遊びは個人差があるものの、遊具に取り組んだり体を動かす姿が見られた。 ・落ち葉や木の枝、石等を食べ物に見立てて砂場遊びでケーキやプリンの上に乗せて楽しんだ。また、落ち葉を家に持ち帰り作品作りをし、園に持ってきて披露してくれる姿もあった。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の気持ちや困っている事等を、保育者に自分なりの言葉や方法で伝えようとする。 ○相手の話を聞き理解し、自分の思いも伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な挨拶は促されてする所から始まり、自分から身近な人に挨拶を出来るようになった。 ・困った事があっても泣いて表現する事が多かったが、一人ひとりと向き合い保育者が子どもの気持ちを代弁していく事で、自分の気持ちを表現出来るようになってきている。 ・自分の気持ちを言葉で表現出来るようになった反面、相手の話を聞いて理解する事は難しかった。年中になってからも意識していきたい事柄である。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な体験の中で、感動したことを伝え合う喜びを感じる。 ○感じたことや考えたこと、経験したことなどを音や動きなどで表現したり、描いたり、扱ったり、形を作ったりすることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌ったり、手遊びをする事が好きな子が多く、ピアノを弾くと音に合わせて歌ったり体をゆすってリズムをとる姿が見られた。 ・子ども達が感じた事を素直に表現できるよう、保育者が雰囲気や環境作りに気を付けた。 ・絵画活動では表現の幅が広がってきた。自分が描いた物や作った物を保育者や友だちと共有しようとしていたが、個人差を感じた。
保護者支援		<ul style="list-style-type: none"> ○保護者が安心して園児を送り出せるよう、お便りカードやクラスだよりにて園の様子を伝え、信頼関係を築いていく。 ○行事等への取り組みの様子やねらいをわかりやすく伝え、子どもの成長との関係性を理解してもらう。また、家庭からのサポートもお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が不安にならないよう、おたよりカードで園での様子を知らせる事や送迎の際に話す事を心掛けた。保護者からの相談にも出来る限り対応したが、その後のフォローまでは十分出来なかった。 ・運動会や発表会などの行事では、直接成長を感じられたという保護者からの声があった。 ・ケガ日誌をつけるようになった事で、今まで把握しきれなかったケガについても把握ができ、保護者に連絡をすることが出来た。 ・子ども同士のトラブルについては伝え方が難しかった。自分だけでは解決出来ない事は、他の職員に相談し対応した。自分自身の勉強になると共に、今後の課題でもある。

年間目標		ね ら い	反 省
		<ul style="list-style-type: none"> ○新しい環境に慣れ、安心して過ごす。 ○健康的な生活習慣が身に付いていく。 ○戸外で体を動かし、ルールのある遊び・季節感のある遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れるまでに時間を要する子が見られたが、6月過ぎからクラスに慣れ始め行事を経験した2学期にはクラスの仲の深まりを感じた。 ・年中になった当初は集団遊びのルールが分からなかったが、一年を通してクラスや学年で取り組んだことで、3学期にはルールを理解し楽しんで遊びに参加出来るようになった。 ・石鹸での手洗いやうがいには身につけており、感染症対策を意識出来ていた。
指導内容の視点	健康	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス全員で運動遊びに取り組む中で、目標に向かって頑張ろうとする。 ○全身運動のバランスがとれ、大人と同じように複雑な運動や様々な遊具や用具を取り入れて遊ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一年を通して爆弾ゲームやリレーなど集団遊びを楽しめた学年であった。年長児になってからのドッジボール等の遊びにつなげていきたい。 ・2学期より、鉄棒・跳び箱・縄跳び等に個別に取り組み、目標を達成した時には自信につながった。その反面、自ら練習をしない子については、達成度に差が出てしまった。毎年個人差が出るとの反省がある。この個人差を小さくする為の働きかけを保育者が考えていく必要がある。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ○好きな遊びを見つけ、保育者や友だちと体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ○友だちのよさに気付いたり、相手を受け入れたりしながら、友だちと一緒に活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は保育者を通して一緒に遊ぶことが多かった。2学期には子ども同士で遊びを楽しめるようになった。 ・友だちとの仲が深まると同時にトラブルが増えた。相手の気持ちを思いやったり、自分の意見を言葉で伝える事を促していった。学年末には少しずつ相手の思いに気付いたり、その思いを受け入れられるようになった。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな素材や自然物で製作をする。 ○行事を心待ちにし、喜んで参加する。 ○草木や風の様子等に気付き、自然の変化を感じ取ったり、冬の自然事象に興味・関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トマトの栽培を始めたことで植物に興味を持つようになった。水やりをし、生長を日々感じていた。 ・コロナ禍でもやり方を考えて行事を行えるようになり、子どもたちも期待を持って行事に向かって取り組むことができた。運動会や発表会を経験する事でクラスの結びつきが強くなった。 ・季節の移り変わりには気づいていたが、自然物を用いての製作までつなげる事が出来なかった。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ○紙芝居や絵本などを見たり聞いたりして、言葉の面白さに興味を持つとともに、友だちや保育者と言葉を交わしながら、想像してイメージを広げ、表現して楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や紙芝居を読み聞かせてもらうことが好きで、集中して聞く姿があった。その中で物語のイメージを膨らませている様子もあった。 ・年度当初は自分の気持ちを言葉で表すことが出来ず、困っている様子が見られた。保育者や友だちと言葉をやり取りしていく中で、語彙が増え、自分の気持ちを伝えられるようになっていった。 ・文字を書くことにも興味を持つ姿があった。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ○身近にあるいろいろな素材や用具に親しみ、描いたり作ったりすることを楽しむ。 ○言葉を主体とした共通のイメージを持って遊び、工夫しながら遊びを展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて個人持ち絵の具に触れ、自分だけの色を作ることを楽しんだ。また、様々な絵画技法で描くことにも取り組んだ。 ・行事後に絵を描くことで経験したことを表現することが出来るようになった。 ・言葉のやり取りが出来るようになると、遊びの中でイメージを共有できるようになり、遊びの幅が広がった。役割分担をする姿も見られた。
保護者支援		<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣や態度、遊び方、友だち関係などの日常生活について発信し、成長への期待の支えとなるよう関わり、保護者と共に考える。また共に成長の喜びを共有する。 ○子ども同士のトラブルは、発達の自然な姿であることを知らせ、理解や協力を求めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おたよりカードで日々の子どもの様子を伝える事はできたが、もう少し積極的に保護者と関わりを持てると良かった。園に送迎などで出入りのある保護者とは話す機会を持てたが、あまり会う機会がない保護者との関わりが少なく、偏りができてしまった。 ・もう少し一人ひとりの保護者と細かく子どもの成長や課題を共有し、偏りなく連携をしていくことを心掛けていかななくてはならない。 ・行事での子どもの様子を見て頂き、共に子どもの成長を喜ぶことはできた。 ・子ども同士のトラブルが多くなる年中。見守り、援助、大人がどこまで関与すべきかを考えて保護者にも伝えた。普段から保護者との信頼関係を作っておくことが必要と感じた。

教育目標：自ら考え、自ら取り組 意欲を持つ。
子ども同志で主体的に生活やあそびを繰り広げられるようになる。

年間目標		ね ら い	
			反 省
指導内容の視点	健康	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の体に関心を持ち、健康な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。 ○十分に体を動かし、全身を動かして遊ぶ満足感を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初は保育者を中心としての遊びが多かったが、クラスの仲が深まった2学期以降は子ども同士で関わり、遊びを広げていく姿があった。 ・年長になり、年下の子の世話をしたいという気持ちはあるものの、どう接していけば良いか分からない様子があった。3学期のこともえっこまつりで異年齢で触れ合う機会が増えたことで、年下の子に優しく教える姿が見られるようになった。 ・ドッジボールや鬼ごっこなどの集団遊びを楽しむ姿が年間を通して見られた。 ・2学期には運動会の種目であるリレーの練習が増え、一生懸命に走ったりクラスの友だちを全力で応援する姿があった。クラスが一体となり達成感が感じられた。 ・冬の寒さの中でも怪我に気を付けながら跳び箱やマット運動に取り組み、苦手なものが出来るようになった子もいた。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ○遊びの中での意見や感情の行き違いの中で、相手の気持ちや考えを分かろうとする。 ○仲間と協働しながら、遊びを持続し発展させ、共通の目的を持ち創意工夫しながら満足いくまでやり遂げようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の後半には子ども同士で話し合い、問題を解決していけるようになった。 ・3学期には子ども達で話し合い、譲り合ったり役割分担をして活動が出来た。 ・クラスの仲間と協働して作品を作り上げる楽しさを味わったが、子ども達が満足するまでやり遂げさせる事が出来なかった。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ○活動や経験を通して、見通しを立てる力が育ち、進んで環境に関わろうとする。 ○身近に起こる自然事象に関心を持ち、疑問に思ったことなどを試したり、調べたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の中で、子ども達に考えてもらう機会を設けていくようにした事で、意欲的に活動に取り組めるようになった。 ・虫に興味を持つ子がおり、どう育つか等の疑問に対して側で見守りながら、一緒に観察することができた。自然の本をクラス内に置く等すれば、もっと自然に対する興味が高まったのではないかと思います。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ○生活の中の言葉や文字・記号に関心を持ち、自分達の表現したいことを伝える手段として取り入れて使う。 ○友だちの主張にも耳を傾け、共感したり意見を言う中で、自分の主張を譲ったり協働していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期には自分の思いを文章に表したいという気持ちが出てきた。書き方が分からない時は教師に質問する姿も見られた。作文の活動を重ねていくと自分の思いを文章に出来るようになった。 ・行事に向けて話し合いを繰り返す中で、友だちの意見を否定しないで聞こうとする姿が増えた。自分の意見を伝える大切さも感じていた。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ○共有するイメージを持って、遊びの中で役割を持ち協働しながら遊びを展開し、試行錯誤しながら満足いくまで遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期には自分のイメージは伝えられるものの、相手のイメージを受け入れられない子もいた。皆、色々な考え方があつた事を伝え、知ってもらうようにした。 ・3学期には、自分たちで役割を決め遊びや活動を進められるようになった。意見の相違もあつたが、話し合いで解決出来る姿が増えた。
	保護者支援	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスの運営方針を伝え、一緒に子育てを楽しめるように言葉かけをする。 ○子どもが試行錯誤しながら成長していく様子を伝え、温かく見守りながら励ますことの大切さを理解してもらう。 ○就学に向けての保護者の対し、小学校の様子や情報を知らせ、安心してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と直接会って話す機会が少なく、手紙では上手く伝えられない事をお話する事が出来なかった。電話をする等していけば良かった。 ・行事を見て頂いたり、クラスだよりでクラスの様子を伝える事で、子ども達の成長は感じて頂いた。 ・こまめな連絡を怠った事で親からの信用を無くしてしまう事柄があつた。保護者との連絡を密にしていく必要性を感じた。 ・年長組の担任が小学校についてきちんと理解していなかった為、具体的に情報を伝えられていない。子どものいる職員に聞くなど、小学校についての情報収集が必要。

学校法人 鴨江寺学園

令和4年度 きなりこどもえん事業報告書

1 法人の概要

○ 建学の精神

本園は、釈尊の説かれた「法を灯明とし、自らを灯火とせよ」の、幡を掲げています。

本園は、先哲の流れを現代に生かし、体は野性的に！ 心豊かに！ 知能は文化人に！と、3拍子揃った教育を基本としています。

宇宙的広がりの中で、子どもたちが自己実現できる人間に成長し、感謝と努力を胸に、世界で創造・調和・貢献できる人間となるための土台作りに励んでいます。

我々は、より良い未来を創るために、PTAの三者が共に喜びあえる集団であることを念じています。

○ 設立の経過

昭和25年3月14日 宗教法人鴨江寺 鴨江幼稚園設置認可
昭和58年6月30日 学校法人化への設置者変更申請
昭和58年7月28日 学校法人鴨江寺学園認可
平成29年3月31日 学校法人鴨江寺学園幼保連携型認定
きなりこどもえん 設置認可
現在に至る

○ 設置する学校

きなりこどもえん

○ 園則定員

0才児	9人	1クラス
1才児	15人	1クラス
2才児	24人	1クラス
3才児	24人	1クラス
4才児	24人	1クラス
5才児	24人	1クラス

120人

○ 園児数

0才児	6人	1クラス
1才児	18人	1クラス
2才児	24人	1クラス

3才児	24人	1クラス
4才児	24人	1クラス
5才児	24人	1クラス
		120人

○ 役員・教職員の概要

理事	6人
評議員	13人
監事	2人
教職員	30人

2 事業の概要

○ 当該年度の事業の概要

別紙 年間予定表

○ 当該年度の主な事業の目的



人間の土台を育む年間カリキュラムを実践

○ 園と園児と家庭で共通の、園児の個人目標をたて、達成するために家庭と園が連絡を密にした。

○ 子どもの安全対策

- ・園児の健康管理 — R4年4月5月・6月・11月 内科・歯科検診実施
- ・部外者への侵入対策 — R5年1月 防犯訓練実施
- ・園内での事故防止対策 — 月1回 遊具総点検
- ・交通事故防止対策 — R4年6月 ・R5年2月 交通安全教室実施
- ・施設設備の点検 — 電気・エレベーター隔月点検委託実施
月初め施設設備自主点検実施
- ・地震対策 — R4年5・9・10・12 R5.3月 地震避難訓練実施
- ・火災予防対策 — R4年4・7・8・11 R5-2 火災避難訓練実施

<教育要領実施項目>

I 健康

1. 行動と充実感
 - ・体育ローテーション・オブネット英語
2. 運動
 - ・マラソン・コスモスポーツ・運動会
3. 健康・安全
 - ・薄着の励行・防災避難訓練・交通安全教室・コロナ対策

II 人間関係

1. 自分の力で行動する充実感
 - ・制作活動・園外保育・ゲーム遊び
2. 人とのかかわり
 - ・お店屋さんごっこ・遠足・盆踊り・ヒッポ
3. 社会性
 - ・朝礼・基礎活動・給食当番

III 環境

1. 自然とのふれあい
 - ・園外保育・遠足・花壇・朝顔、野菜の栽培
2. 身近な環境に自分からかかわる
 - ・園内遊び・七夕・餅つき・クリスマス・節分・クッキング
3. 身近な事象の中で数、文字の感覚を豊かにする
 - ・モンテ・かるた

IV 言葉

1. 自分の気持ちを言葉で表現する
 - ・当番活動・生活発表会・劇遊び
2. 言葉で伝え合う喜びを味わう
 - ・言語発表の時間・ごっこあそび・ヒッポ
3. 日常会話を習得し、まわりの人と心を通わせる

・絵本、紙芝居の読み聞かせ・ごっこ遊び

V 表 現

1. 美しさに対する豊かな感性
・絵画・BGM・読詩
2. 自分なりに表現する
・劇遊び・リトミック・絵画制作・発表会
3. イメージを豊かにし表現を楽しむ
・エポック・リトミック・発表会

以 上

令和5年4月3日

学校法人鴨江寺学園
きなりこどもえん
園長 建部 真貴子

令和4年度事業報告

きなりこどもえん 建部真貴子

<空組>

- ・担当制なので、個々のリズムを大切にし家庭と連携を取りながら生活リズムを整えたり、担当保育者との信頼関係を深めたりした。特に、抱っこやおんぶ、膝の中に入れる等家庭で過ごしているような雰囲気作りをしてスキンシップを増やした。入園時期や月齢に差があるため、個々の成長に合わせ玩具を選択し安全に遊べるような環境作りを心掛けた。

<空1組>

- ・複数人での保育のため、常に子どもや家庭の変化は共通理解することを心掛け、理解した上で共通した対応ができるようにした。イヤイヤ期の時期や発達に合わせて担当だけでなく他の職員も対応し子どもの視野を広げられるように努めた。

<光組>

- ・クラス全体として情緒や発達に課題のある子が多く、個々の対応を必要とされた。配慮を必要とする子への対応に追われ、自立している子への関わりが手薄となってしまう、複数人保育者がいるのでうまく対応できるようにもっと工夫すべきであった。落ち着いた雰囲気作りのため、わらべうたを生活の中に取り入れ安定を図った。

<星組>

- ・友だちとの関わりが増えることによりトラブルが多発した。言葉で伝えようとするものの強い口調であったり「ばか」などの単語を使う子が多かったりした。子ども達の様子を見守り保育者が仲裁に入り導いていった。人前での発表に恥じらいがあるため、舞台上に立って歌を披露する場を設けた。自己表現することの楽しさを味わうことができた。

<虹組>

- ・時計や数字に興味を持つ子が多かったので、時間を意識できるよう目印となる時間をこまめに知らせた。歌が好きということもあり、わらべうたや歌に親しめるような保育を工夫した。歌の意味を知り、そのうえで自己表現することの楽しさを味わうことができた。その結果、劇あそびやごっこあそびへと発展させることができた。

<月組>

- ・共同性に欠けるため、当番を6人のグループや2人組など子どもの成長に合わせ変更し伸ばしていった。課題であった友だちとの関わりはトラブルが絶えず保育者の仲裁を必要とした。思考力をつけるため、絵日記の活動を強化した。出来事ではなく自分の感想を考え文章にすることで表現豊かに成長した。

<全体>

- ・終息に向かっていて新型コロナウイルス感染症であったが、子どもはもとより職員にまん延してしまい、休園の措置を取らざる負えなくなってしまった。今まで以上に職員の健康管理をしっかりとしていかなくてならない。また職員同士で体調の変化に気付ける余裕もあればと思う。バスの置き去り死亡事故や不適切保育などのニュースも多く、当園でも点呼の見直しと徹底を行い、不適切保育についても全体研修を行い、未然防止や対策に努めている。
- ・施設面では、常に子供の安全を守るために建物や備品に破損がある場合には、できる限り修理をしたがまだ不十分なところがある。次年度は優先順位の高いところから改善していきたいと考えている。昨年度、園庭の芝生の改修を行ない、秋頃まで青々とした芝生の上で子どもたちも遊んでいた。今年度は冬の間も青々させるため業者に依頼し冬芝の種を蒔いたが、その期間はとても短く、芝生が枯れると山が剥き出しとなり、築山も崩れ始めている。養生中は園庭が使用できなくなる期間が多くなるため今後の課題となる。

令和4(2022)年度 学校法人鴨江寺学園鴨江幼稚園の教育活動に関する自己評価並びに学校関係者評価委員の意見

令和5年3月30日

学)鴨江寺学園理事長 建部仁洋
学校関係者評価委員議長 吉澤俊道

○ 自己評価及び学校関係者評価

評価分類	評価内容	自己評価		学校関係者評価委員会		
		園としての反省・分析・改善点	評価	委員会の意見	評価	
保育の計画性	①園の教育理念の理解	園の教育理念や教育方針に共感し、その内容を十分理解している。	新人がいいため教育理念等は周知されている。そこからねらいを持った教育を実行できるようより精進が必要である。	A	園の教育方針に沿って先生方は一所懸命に教育をしている。ただし現状に満足せずに改革は必要である。	A
	②指導計画の作成	幼稚園教育要領、教育方針、課程、園児の実態等を配慮して作成している。				
	③環境構成	指導計画を基に、意欲的かつ主体的に活動できる環境を構成している。				
	④計画の評価・反省	自分の保育と計画を評価・反省し、話し合い、次の保育に役立てている。				
保育の在り方	①健康と安全への配慮	朝幼児の健康管理には十分に配慮し、安全性や清潔さにも配慮している。	各学年での情報共有並びに縦横の連携が薄いところがある。コロナ禍で連携を深めなければいけないと痛感した。	B	園全体で子どもの情報を共有するよう努力している。ただし、ハウレンソウがまだまだできていないこともあり、情報が足りていないこともある。	A
	②値の理解	幼児を理解し、あるがままを受け止めるとともに、指導目標を明確にしている。				
	③幼児との関わり	傾聴・共感・受容・認証・奨励のかかわりを大切にしている。				
	④教師同士の連携	教師全員が幼児について理解し、互いに連携しあうことを大切にしている。				
教師としての資質・能力・成長	①良識とマナー	教師らしい品位のある言葉を心掛けている。	教師としての品位を保つよう努力している。幼児とともに成長し、そこから喜びを共に感じられるよう、一層の努力が必要である。	A	社会人としての礼儀作法、ビジネスマナーの習得は必須である。挨拶がしっかりできているのはいいことである。	A
	②職務上の守秘義務	職務上知り得た情報などの秘密を守る。重要書類等を持ち出さない。				
	③保育の楽しみ・喜び	生活を創り出すことを楽しく思い、幼児の成長を理解し喜ぶことができる。				
	④状況を感じる感性	幼児教育の情報を捉え、自然や社会の出来事にも関心を持つ。				
保護者への対応	①情報の発信	クラスようす、自分の保育観、ポイントなどを知らせている。	クラス便りなど保護者との情報共有などに努めてきてはいるが、一部の保護者とのコミュニケーション不足は否めない。穴のない情報伝達が重要である。	B	SNS等での情報発信をしており、若い保護者にとっては好評である。ただし、ほしい情報が欲しい保護者に届いていないなど、課題は多い。	B
	②個への対応	個々の幼児について必要に応じて情報を発信したり受信したりしている。				
	③保護者や幼児への対応	保護者や幼児と公平に接し、教師としての節度をもって適切に対応している。				
	④相談などへの対処	相談等に話を聞き、主任や園長に報告・連絡・相談し、適切に対処している。				
地域との関わり	①子育て支援への関心	園が地域の子育て支援センターの役割を有していることを理解している。	昨年度に続きコロナ禍の為、園以外の関わりが非常に少ない一年となった。しかし挨拶等、普段できる何気ない地域との関わりを積極的にしていく必要がある。	B	コロナ禍を理由に外部との関りが減ってはいるが、コロナが収まってきている中、マインドが内向きになっていないよう、気を付けなければならない。	A
	②小学校との連携	スムーズに小学校へ進学できるよう、小学校の教育内容を理解している。				
	③人々への関わり	地域の人々と親しく挨拶を交わしている。				
	④地域への関わり	地域の自然や施設の場所、交通機関、主な行事等について把握している。				
研修と研究	①研修・研究意欲	研修や研究の必要性を認識し、自己課題をもって参加している。	園外研修などまだまだコロナ禍前には及ばないが、徐々に研修が増加している。積極的に参加して、多くを学ぶ姿勢がほしい。	A	研修が増加している中でzoom研修など、状況にあった研修プランも必要であろう。	A
	②教師としての研究	幼児のみと内面を理解し、指導と関わりについて研修・研究を行っている。				
	③遊具・教材	園の遊具や教材について、特徴や扱い方、利用方法を研究している。				
	④自らを高める	保育関係の他に、趣味、読書、芸術等、教養を深める努力をしている。				
総合評価	保護者アンケート	アンケートの回収率は比較的高止まりである。コロナ禍において幼稚園が通常でない中、極力多くの行事等も行っていたため、概ね高評価であった。	総合的考察		コロナが収まりつつある中、今年度はどこまで以前の教育ができるかが焦点の一つであった。そのなかで多くの教育をしていたことは概ね評価できる。しかし、細かな点で、コミュニケーション不足が露呈しているきがした。	

令、4年度 きなりこどもえん自己評価

きなりこどもえん 園長 建部真貴子
 学校関係者評価委員議長 吉澤 俊道

評価分類	評価内容	自己評価		学校関係者評価委員会	
		園としての反省と改善案	評価	学校関係者評価委員会の意見	評価
社会人としてのマナー	教職員として意識し、職員同士がチームであることを意識し、行動できているか。	ほぼ全員の職員が社会人としてのマナーと教職員としての自覚を持ち行動している。今後も教職員同士の連携と協調性をさらに高めていきたい。	A	職員一人ひとりが明るく挨拶することができている。とても印象がよく感じられる。	A
保護者への対応	個人情報を通正に取り扱いし、保護者に対して区別や差別をすることなく対応できているか。	教職員は個人情報遵守に取り組んでいる。保護者への意見は謙虚に受け止め話を聞くようにしている。保護者に対して平等に挨拶や声掛け等を大切に信頼関係を保つようにしている。	A	個人情報の取り扱いを通正にしている。どの保護者に対しても公平に対応をしている。	A
地域社会	地域の行事など興味関心を持って参加することができるか。	地域の小学校と小学校入学に向けて交流も行われている。消防の消火訓練や交通安全協会の指導員の方たちとも指導を交えながら交流も行った。	B	地域との交流も積極的にしている。地域の住民のご意見も真摯に受けて止めていて誠実に対応しているのが感じられる。	B
研修・研鑽	研修等、向上心を持って参加することができるか。	今年度はZoomでの研修が充実していた。社会的に問題になった事など研修を充実させた。今後も個々の意識を高め、より良い園にしていきたい。	B	園外研修だけでなく、園内研修を多く実施されているようである。タイムリーな問題にもすぐ対処をして研修しているのが見られてよいと感じた。	A
専門職	園の教育方針、理念を理解し、子ども達に合った保育に努めることができるか。	事故防止に努めながら、乳幼児の発達や特性を理解し、日常生活や遊びの中で幼児教育や保育の質の向上につなげている。さらに継続していきたい。	B	幼児教育や保育内容がより充実したものとなるようより努めてもらいたい。	A
	総合	新型コロナウイルスの発生により3年目、様々な感染対策を行いながら少しずつ以前の生活を取り戻している。今年度、初めて卒園児、保育者はマスクなしで卒園式を行うことができた。	B	今年度も保育業界は話題の尽きない一年だったが、行政の指示の下、一生懸命対応している姿が見られ、保護者からも高い評価と信頼関係を築けている。	A

資金収支計算書

令和 4年 4月 1日から
令和 5年 3月 31日まで

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	149,650,000	150,967,091	△ 1,317,091
手数料収入	60,000	60,000	0
寄付金収入	700,000	1,011,400	△ 311,400
補助金収入	198,473,000	214,685,830	△ 16,212,830
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	44,000,000	47,128,206	△ 3,128,206
受取利息・配当金収入	26,000	26,989	△ 989
雑収入	10,146,430	10,689,948	△ 543,518
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,680,000	1,880,000	△ 200,000
その他の収入	11,059,558	11,594,816	△ 535,258
資金収入調整勘定	△ 2,600,000	△ 19,110,317	16,510,317
前年度繰越支払資金	654,282,528	654,282,528	
収入の部合計	1,067,477,516	1,073,216,491	△ 5,738,975

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	260,126,430	259,365,078	761,352
経費支出	87,800,000	76,582,356	11,217,644
借入金等利息支出	3,080,000	3,024,683	55,317
借入金等返済支出	10,010,000	10,008,000	2,000
施設関係支出	0	0	0
設備関係支出	3,700,000	2,874,675	825,325
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	8,370,857	7,920,527	450,330
(予備費)	(1,250,000) 750,000		750,000
資金支出調整勘定	△ 1,300,000	△ 11,377,972	10,077,972
翌年度繰越支払金	694,940,229	724,819,144	△ 29,878,915
支出の部合計	1,067,477,516	1,073,216,491	△ 5,738,975

資金収支内訳表

令和 4年 4月 1日から

令和 5年 3月 31日まで

収入の部

(単位：円)

科 目	学校法人	鴨江幼稚園	きなりこどもえん	総 額
学生生徒等納付金収入	0	114,984,176	35,982,915	150,967,091
手数料収入	0	0	60,000	60,000
寄付金収入	0	1,011,400	0	1,011,400
補助金収入	0	64,753,000	149,932,830	214,685,830
資産売却収入	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	0	45,305,994	1,822,212	47,128,206
受取利息・配当金収入	0	26,294	695	26,989
雑収入	0	7,582,492	3,107,456	10,689,948
借入金等収入	0	0	0	0
計	0	233,663,356	190,906,108	424,569,464

支出の部

(単位：円)

科 目	学校法人	鴨江幼稚園	きなりこどもえん	総 額
人件費支出	0	140,851,601	118,513,477	259,365,078
経費支出	77,200	50,316,226	26,188,930	76,582,356
借入金等利息支出	0	0	3,024,683	3,024,683
借入金等返済支出	0	0	10,008,000	10,008,000
施設関係支出	0	0	0	0
設備関係支出	0	2,038,675	836,000	2,874,675
計	77,200	193,206,502	158,571,090	351,854,792

事業活動収支計算書

令和 4年 4月 1日から
令和 5年 3月 31日まで

(単位：円)

科 目		予 算	決 算	差 異		
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	149,650,000	150,967,091	△ 1,317,091	
		手数料	60,000	60,000	0	
		寄付金	700,000	890,000	△ 190,000	
		経常費等補助金	198,473,000	214,685,830	△ 16,212,830	
		付随事業収入	44,000,000	47,128,206	△ 3,128,206	
		雑収入	10,146,430	10,689,948	△ 543,518	
		教育活動収入計	403,029,430	424,421,075	△ 21,391,645	
	事業活動支出の部	人件費	260,126,430	259,365,078	761,352	
		経費	125,800,000	113,295,195	12,504,805	
		徴収不能額等	0	0	0	
		教育活動支出計	385,926,430	372,660,273	13,266,157	
		教育活動収支差額	17,103,000	51,760,802	△ 34,657,802	
	教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	26,000	26,989	△ 989
			その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	26,000	26,989	△ 989	
事業活動支出の部		借入金等利息	3,080,000	3,024,683	55,317	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
		教育活動外支出計	3,080,000	3,024,683	55,317	
	教育活動外収支差額	△ 3,054,000	△ 2,997,694	△ 56,306		
経常収支差額		14,049,000	48,763,108	△ 34,714,108		
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0	
		その他の特別収入	0	121,400	△ 121,400	
		特別収入計	0	121,400	△ 121,400	
	事業活動支出の部	資産処分差額	200,000	0	200,000	
		その他の特別支出	0	0	0	
		特別支出計	200,000	0	200,000	
	特別収支差額	△ 200,000	121,400	△ 321,400		
(予備費)		(1,200,000) 800,000		800,000		
基本金組入前当年度収支差額		13,049,000	48,884,508	△ 35,835,508		
基本金組入額合計		△ 13,710,000	△ 12,882,675	△ 827,325		
当年度収支差額		△ 661,000	36,001,833	△ 36,662,833		
前年度繰越収支差額		246,534,045	246,534,045	0		
基本金取崩額		0	0	0		
翌年度繰越収支差額		245,873,045	282,535,878	△ 36,662,833		
(参考)						
事業活動収入計		403,055,430	424,569,464	△ 21,514,034		
事業活動支出計		390,006,430	375,684,956	14,321,474		

事業活動収支内訳表

令和 4年 4月 1日から
令和 5年 3月 31日まで

(単位：円)

科 目		学校法人	鴨江幼稚園	きなりこどもえん	総 額
教育活動収支	事業活動収入の部				
	学生生徒等納付金	0	114,984,176	35,982,915	150,967,091
	手数料	0	0	60,000	60,000
	寄付金	0	890,000	0	890,000
	経常費等補助金	0	64,753,000	149,932,830	214,685,830
	付随事業収入	0	45,305,994	1,822,212	47,128,206
	雑収入	0	7,582,492	3,107,456	10,689,948
	教育活動収入計	0	233,515,662	190,905,413	424,421,075
	事業活動支出の部				
	人件費	0	140,851,601	118,513,477	259,365,078
	経費	77,200	63,182,597	50,035,398	113,295,195
	徴収不能額等	0	0	0	0
	教育活動支出計	77,200	204,034,198	168,548,875	372,660,273
	教育活動収支差額	△ 77,200	29,481,464	22,356,538	51,760,802
教育活動外収支	教育活動収入の部				
	受取利息・配当金	0	26,294	695	26,989
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0
	教育活動外収入計	0	26,294	695	26,989
	教育活動支出の部				
	借入金等利息	0	0	3,024,683	3,024,683
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	3,024,683	3,024,683
教育活動外収支差額	0	26,294	△ 3,023,988	△ 2,997,694	
経常収支差額	△ 77,200	29,507,758	19,332,550	48,763,108	
特別収支	事業活動収入の部				
	資産売却差額	0	0	0	0
	その他の特別収入	0	121,400	0	121,400
	特別収入計	0	121,400	0	121,400
	事業活動支出の部				
	資産処分差額	0	0	0	0
	その他の特別支出	0	0	0	0
特別支出計	0	0	0	0	
特別収支差額	0	121,400	0	121,400	
基本金組入前当年度収支差額	△ 77,200	29,629,158	19,332,550	48,884,508	
基本金組入額合計	0	△ 2,038,675	△ 10,844,000	△ 12,882,675	
当年度収支差額	△ 77,200	27,590,483	8,488,550	36,001,833	
(参考)					
事業活動収入計	0	233,663,356	190,906,108	424,569,464	
事業活動支出計	77,200	204,034,198	171,573,558	375,684,956	

貸借対照表

令和5年3月31日

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	731,732,085	765,570,249	△ 33,838,164
有形固定資産	721,867,875	755,611,354	△ 33,743,479
特定資産	0	0	0
その他の固定資産	9,864,210	9,958,895	△ 94,685
流動資産	742,352,031	665,342,086	77,009,945
資産の部合計	1,474,084,116	1,430,912,335	43,171,781
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	237,450,000	247,458,000	△ 10,008,000
流動負債	27,497,773	23,202,500	4,295,273
負債の部合計	264,947,773	270,660,500	△ 5,712,727
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	926,600,465	913,717,790	12,882,675
第1号基本金	926,600,465	913,717,790	12,882,675
繰越収支差額	282,535,878	246,534,045	36,001,833
純資産の部合計	1,209,136,343	1,160,251,835	48,884,508
負債及び純資産の部合計	1,474,084,116	1,430,912,335	43,171,781

財産目録

令和5年3月31日

科目	年度末
基本財産計	723,898,753
運用財産計	750,185,363
財産の部合計	1,474,084,116
固定負債計	237,450,000
流動負債計	27,497,773
負債の部合計	264,947,773


令和4年度監査報告書

令和5年5月15日

学校法人 鴨江寺学園

評議員会 御中

学校法人 鴨江寺学園

監事 冢近快泉 

監事 鈴木昭演 

私たちは、学校法人鴨江寺学園の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて同学園の令和4年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び付属明細表）を含め、学校法人の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか、理事から業務の報告を聴取し、重要な決済書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録および計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支および財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上

令和4年度監査報告書


令和5年5月15日

学校法人 鴨江寺学園

理事会 御中

学校法人 鴨江寺学園

監事 冢近快泉 

監事 鈴木昭演 

私たちは、学校法人鴨江寺学園の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて同学園の令和4年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び付属明細表）を含め、学校法人の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか、理事から業務の報告を聴取し、重要な決済書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録および計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支および財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は無いものと認めました。

以上